



御坊東ロータリークラブ Club Weekly Britain



世界に希望を生み出そう

四つのテスト(Four way Test)

- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

例会 水曜日18時30分 御坊御坊商工会館3F
 事務局 〒644-0002
 和歌山県御坊市歯350-28(御坊商工会館3F)
 連絡先 TEL 0738-23-2334 FAX 0738-22-1234
 URL <http://gobo-rc.jp/east/>

会長 小池佳史
 副会長 松本政彦
 幹事 東本慎司

謹賀新年



3クラブ

新年合同例会

新年明けましておめでとうございます。

○2023年にご逝去された会員と、能登半島地震でお亡くなりになりました方々に対し、黙祷。

ホストクラブ会長挨拶

小池佳史 君

3クラブ合同例会はコロナ過でなかったので久しぶりの開催となりました。他のクラブの会長と打合せをしながらとなりました。各クラブ人数が少なくなっていると思いますが、もしイベントがあることがあれば共同でとなることも多々あると思います。

御坊市庁舎が1月から業務を開始しておりますが、長椅子8脚と時計を寄付させていただきました。旧庁舎の解体はアスベストが関係していて20カ月程度かかるらしく、来年の8月まで駐車場が使えないということです。

御坊RC、田辺RCが今年の7月に70周年を迎え式典をするということは聞いています。

今年一年間よろしくお祈りします。

ニコニコ箱

SAA 北垣 剛 君



第1例会は全員ニコニコ!! あいがとうございました。



本日のプログラム

「3クラブ会長挨拶」

◇御坊 RC 会長 小竹伸和 君

まずもって、元日に起こりました「能登半島地震」に合わせ、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。

また、被災された方々に心からお見舞いを申し上げますとともに被災地の一日も早い復興を祈念申し上げます。

本日は久しぶりの3クラブ合同例会です。コロナ禍でしばらく滞っていた合同初例会ですが丸山、小池両会長から「折角の御坊クラブの周年の年度でもあるので、久しぶりにやりましょう」とのお申し出を受けての今回の合同例会となりました。

さて、年が明けましてすでに12日となりましたが、仕事柄昨日の残り戎まではバタバタと忙しくさせていただきました。元日も少々雨が降ったりしましたが、気候も良く気持ちの良い三が日であったと思います。

三が日、十日戎と過ぎ、この後は15日のどんど焼でもって、新年行事を終えます。

そのどんど焼に関して、少しこの告知でお話しさせていただきたいと思います。どんど焼とは、ご存じのように正月の注連飾りを焼却する行事です。当社でも毎年1月15日の午前中に境内でお焚き上げをしますが、昔から少々困った問題が存在します。

新年には鏡餅を飾るご家庭も多いかと存じますが、その鏡餅をそのまま神社に持ち込み廃棄する方が多くおられます。

鏡餅等は単なる「お飾り」ではなく、年神様に対するお供えの意味があります。お供えである以上、それはお供えした後にお下げして必ず食べるものであります。

鏡餅は昔から松が取れてから「鏡開き」と称して刃物を使わず割り、年神様のおかげを戴く風習があります。最近の空調の効いた家では、松が取れるまで御鏡をおいておくと高確率でカビが発生したりします。



仮に食べなくても神社で行う、どんど焼には決して持ち込まないで、ご家庭での処分をお願いします。

基本的に注連縄は神社で焚き上げる必要は無いことを申し添えておきたいと思っております。神社に返納できるものは「神社でいただいた物」に限られます。量販店で購入した注連縄や正月飾りは各家庭で処分するのが基本であるをご認識いただければ幸いです。よろしくお願ひ致します。

◇御坊南 RC 会長 丸山晋右 君

まず、本邦では 2020 年から続いておりますコロナ禍を乗り越えて、本日の合同例会にこぎつけてくださったことに関し、関係者の方々に感謝を申し上げます。

また、この度の能登半島地震は激甚災害に指定されるほど甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方に対してはご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の方にはお悔やみを、また被害にあわれた多くの方々に対しては、お見舞いを申し上げたいと存じます。戦後の高度成長期以降、科学技術の進歩が著しいことは我々の誇りとするところではありましたが、にもかかわらず、大自然の営みに、まだまだ関与することさえできないという現実も直視しなければなりません。想定内で事がすむのは人間社会の中でも限られた範囲のみであり、それ以外では、常に何が起こるかわからないと考えなければなりません。

一方、事前防災、あるいは減災という言葉もありますように、あらかじめどう対処しておけば被害を少なくできるのか、その「できること」も色々あると思われまます。端的に言えば、耐震性の評価と、その後の補強または段階的処分、生活物資の蓄えと、いざとなったときすぐに逃げだすための準備です。歴史を遡れば北陸地方の地震の後に東海・東南海地震が発生しています。安政・昭和・そして令和であると今のうちから覚悟して、準備しておきたいと考えています。個人的には少しずつ断捨離を進めていきたいと思っています。

地域に目を向けてみますと、崖、傾斜・坂道、ガードレールなしに水路に接している道路など、大きな揺れがあれば被害の起こりうるところがいくつもあります。

また、旧来の住宅地は通路が狭く、崖崩れや倒壊した家屋に通路を遮断されたり、路面崩壊の発生する可能性もあります。

事前防災が少しでも進むことを念じておりますとともに、何かできることがあれば協力したいなあという風に考えております。以上が、この度の震災にあたっての所感です。

今年度 RI 会長、ゴードン R・マッキナリーさんの実の弟さんの例を挙げることは今のトピックに叶うことかもしれませんが、実のところ、日本の社会でメンタルストレスに配慮すべき状況であるにも関わらず全く、または十分に配慮できていないケースは数年来増えています。

今の若い人は我慢が足らんと括って済む時代ではありません。当事者がどういった心理状態にあってどう対処することが適切なのかという事に関するコンセンサスが確立できていないことが問題です。まずは当事者の話にしっかり耳を傾け、しっかり受け止めること。その上で、社会人として仕事にやりがいを持てるような策を講じること。間違っても厄介払いのような対応は慎む必要があります。カギとなるのは個々人の特性や得意分野をしっかり見極め、それを応援し、伸ばすことであると考えられます。軌道に乗れば個々人が超人的な能力を発揮するかもしれません。そして、これこそが我々が次の時代に目指すべき人間像か

もしれません。今の若い人たちは IT、AI に対するアレルギーがありません。情報収集力と活用力はすでに新次元にあります。そういう人たちに、任せるべきはしっかり任せて、なおかつ、しっかり応援する。このことが地域の活性化に直結すると思われまます。

奇しくも、昨日、ニュースで OECD (経済協力開発機構) が日本の定年制度を廃止すべきとの提言をしたと報じられました。働き手不足を解消し、人材の有効活用、保健医療・介護保険制度の維持という観点からもうなづけるものではありませんが、今後の日本の将来を担う若手の経験の蓄積を阻害するものでないことを祈りたいと思っております。日常のノウハウや仕事のコツ、辛いことの切り抜け方から始まって日本の、そして地域の伝統・文化まで、これからの若い人たちに、伝えるべきことをしっかりと伝えられるよう、今のうちから準備したいと思っています。

以上、年頭の所感を申し上げます。任期はあと半年ですが、引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

ROTARY CLUB SONG
手にてつないで (1 番のみ)

てに てつないで つくるとものわ わい
わつないで つくるともがき てに
て わに わ ひろがれまわれ ひい
つこころに 1. おーロータリ 2.
ア ン おーロータリアン てに ア ン



次回例会のご案内

- ★1/31 例会は
湯浅ワイナリー職場見学
(工場見学と試飲)